

日 月 の 事

文永五年

四七歳

せいや 誓耶后
 大 日 天
 びせいや 毘誓耶后
 まりし 摩利史天女
 らくしゃ 輜車に乗ず
 九 曜
 七 曜
 二十八宿
 が 鷲に乗ず
 十二宮

こんこうみょう 金光明 經に云はく「日の天子^{および}及以月天、是の經典を開き精氣充実す」と。最勝王經に云はく「日出でて光を放ち無垢炎清浄なり。此の經王の力に由りて流暉^{るき}四天に遶^{めぐ}る」と。仁王經に云はく「日月度を失ひ」等。大集經に云はく「日月、明を現ぜず。四方皆亢旱す。是くの如き不善友・悪王・悪比丘我が正法^{きえ}を毀壞す」と。仁王經に云はく「非法非律にして比丘^{けばく}を繫縛^{ごくしゅう}すること獄囚の法の如くす」と。法華經に云はく「色力及び智慧、此等皆減少^{げんしょう}す」と。華嚴經に云はく「段食^{だんじき}・法食^{ほうじき}・喜食^{きじき}・禅悦食^{ぜんえつじき}」と。大集經に云はく「三力は一切衆生力・法力・自身功德力なり」と。

日光 ———— 戒光 ———— 清浄なり
 ———— 定光 ———— 定なり
 ———— 慧光 ———— 深^{なん}なり

人 天 ———— 三学 小 乘 ———— 三学
 大 乘 ———— 三学 權大乘 ———— 三学
 実大乘 ———— 三学 純 円 ———— 三学
 法身光・般若光・解脱光

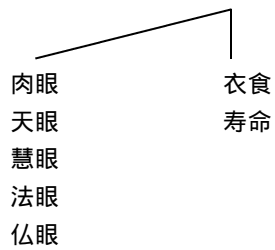
此の天は初地
 十信・十住・十行・十廻向・十地・等・妙
 或は義は十廻向なり

初地は三惑断

初住は三惑断

北辰
 梵・帝釈・日・月・四天等
 衆星

一切の四天下の衆生の眼目



有に非ず地を離るゝが故に。空に非ず有を照らすが故に。辺に非ず中に処するが故に。而も空なり、空に処するが故に。而も有なり、有を養ふが故に。不来なり北に至るが故に。而も来なり南に来たるが故に。不一なり四州を照らすが故に。不異なり一日なるが故に。不断なり常なるが故に。不常なり一処に住せざるが故に。

記の三に云はく「部、方等と雖も義は円極えんごくなる故に。故に今之を引く」と。